

枝打鉋の研ぎ台の考案について

小坂営林署 倉田浩男

1 はじめに

私たち造林事業に従事している者は、年間のほとんどが刃物を扱う作業をしています。作業中は勿論のこと、刃物を研ぐ場合でも安全に特に注意をしています。

特に枝打ち作業は、刃物の切れ味が仕事の能率と、質を大きく左右します。

私は数年前に、左手を負傷し、そのために左手の握力が一時的に低下し、左手での砥石の扱いが不安定となり、特に両刃である枝打鉋を、研ぐのに苦労しましたので、このような状態を克服して、安全でよく切れるよう鉋を研ぐには、どうしたらよいただろうかと考え、鉋を安全に固定して研ぐことを思いつき、鉋の研ぎ台を考案作成し、使用しているので発表します。

2 現場での枝打鉋の研ぎ方

私の現場で実際に研ぐ場合に、一般的に次の二つの方法を用いています。

(1) 大型砥石で研ぐ方法（写真1）

丸太等の台木に砥石の大きさにあわせて、埋め込み砥石を固定し、台木を安定させて両手で鉋を動かして研ぐ方法。

(2) 小型砥石で研ぐ方法（写真2）

鉋の先を台に固定させ、一方の手で鉋の柄を握り、他方の手で砥石を動かして研ぐ方法。

3 考案の着眼点

以上2通りの方法のうち、日常特に小型砥石で研ぐ方法を多く用いていますが、この場合は片手でしっかりと鉋の柄を握り、一方の手で砥石を円滑に動かさないと、何かのショックで砥石が鉋から外れて、手を切傷する危険があります。特に枝打鉋は両刃ですので、両手とも同じ条件で砥石を扱わなければなりません。また握力が弱いと、砥石の扱いがスムーズに動かず危険性が一層高くなります。以上のことから砥石の扱いを円滑にして、より安全でよく切れるように研ぐために、鉋を固定することを着眼点に研ぎ台を考案し、作成しました。

4 作成に当たっての要点

- (1) どのように鉋を台に固定させ、安定させるか。
- (2) 両刃なのでいかにしてスムーズに、裏返しができるようにするか。

(3) 砥石が円滑に刃先まで、うまく当るようにするか。

以上の3点をポイントに次の要領で作成しました。

5 作成の要領

◎ 鉋の固定台(図1)

- (1) 巾15.5cm、長さ9cmの台を作り、まず鉋の背の形に埋込みを入れ、背当り部分の埋め込みの
高さは、鉋の背の厚さと同じにして、刃先が台の先端より少し出るように鉋にあわせて作った。
- (2) 鉋の裏返しが簡単にでき、また砥石を通り易くし、鉋の背部の浮き上りを防ぐために、笠釘で
背部をおさえてゴムで固定するようにした。
- (3) 鉋のスベリや、刃先の動きを防ぐために台の前部に薄いゴム(自転車の古チューブ)を張り付け
た。

◎ 鉋の研ぎ台(図2・3)

- (1) 台を安定させ研ぎ易くするために、脚を付けた台に、鉋の固定台をボルトで取り付けた。(ボ
ルトの上部は頭が台面より低くなるように埋め込みを付ける。)
- (2) 脚を安定させるために、後部に脚固定板をつけ、また持ち運びや保管がしやすいように、脚が
折り返しできるようにした。
- (3) 台の安定を保つために、台の先端部に地面または木株に差し込む釘をつけ、足の長さにあわせ
た位置に足掛板を取り付けた。

6 鉋の研ぎ方(写真3・4)

まず自分の前方に研ぎ台を動かぬように固定し、別の台に腰かけて両足を足掛板にかけ、一方の手で軽く台をささえ、他方の手で小型砥石を力を入れて動かし研ぐ。表面が研げたら、裏返して裏面を同じ方法で研ぐ。

7 おわりに

この台を作るに当って自分の家の身近にあるものを利用して、簡単に作ることができ、鉋を固定することにより、刃物を直接手で持たなくても良くなり、より安全に研ぐことが出来るようになった。また刃先まで砥石が円滑に当るために良く切れるように、研ぐことができました。

今後は造林事業の第一線で山造りに働ける誇りと、仕事に対する責任を自覚し、機会あるごとに改良し、よりよいものにしたいと思います。この発表が現場で働く皆様に少しでも参考になれば幸いです。

№ 1



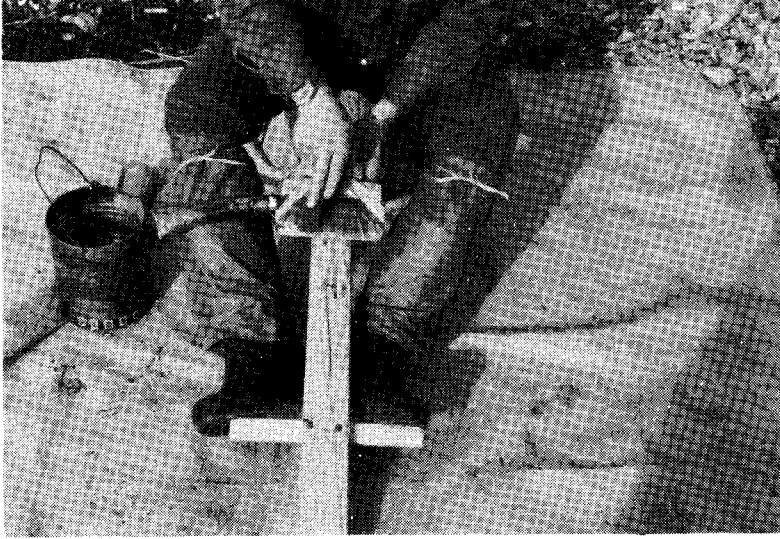
大型砥石で研ぐ方法

№ 2



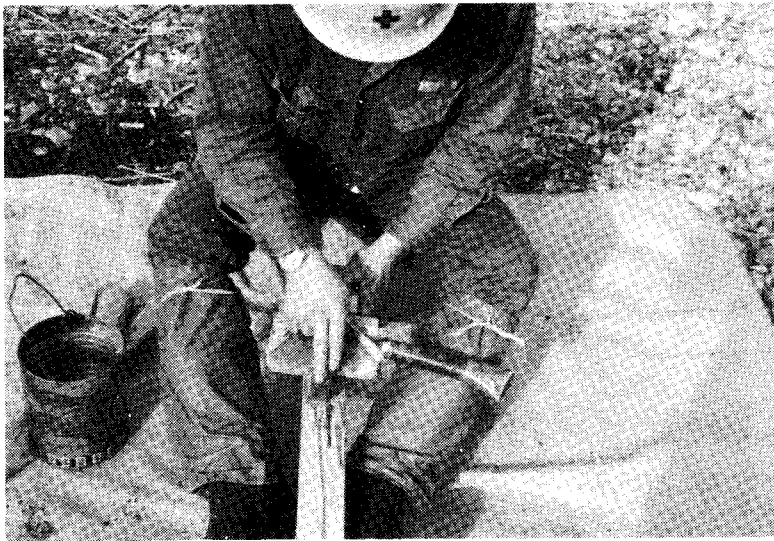
小型砥石で研ぐ方法

№ 3



砥ぎ台で研ぐ方法（表）

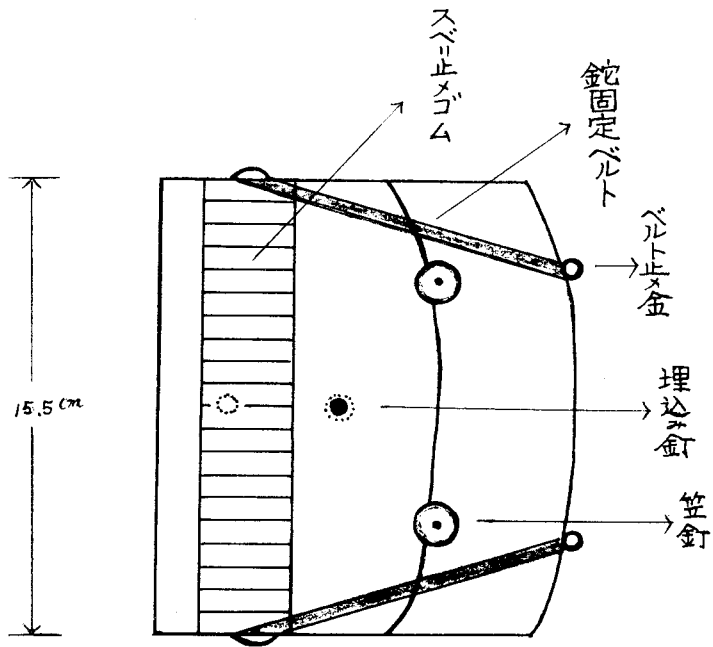
№ 4



砥ぎ台で研ぐ方法（裏）

図1. 鉈の固定台

平面図



側面図

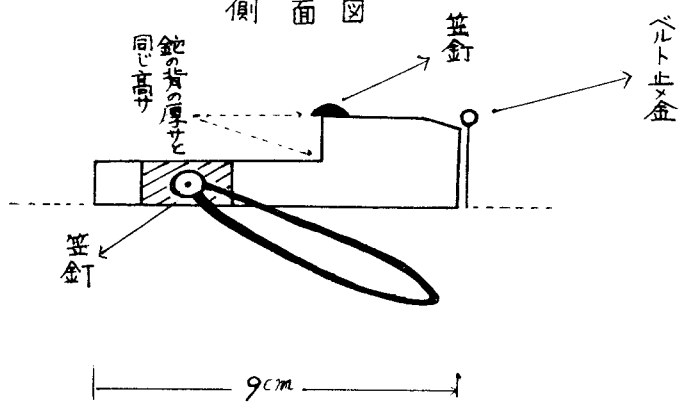


图2. 平面图

